

に見らるゝ海鳥なり海上に浮び漁船に近づき漁夫の獲物を奪去るを以漁者の惡む處なり其飛立つや先づ波上を蹴て立ち四五間走騾して後其廣き羽翼を延はし空中に飛揚す其飛翔力の大なる他に比類を見ず終日休むことなく又飛翔の間五分乃至七分に一回羽撃するにすぎず食を求むるに當りは波上に浮ぶ然れども潜りて水中の魚を捕ふるに至らず魚の表面に浮



信天翁ノ圖

「ひ來るを待て喙むなりアホウトリ」の名は一般に通ずれども地方によりて其名稱を異にす。フキノタイフ州長ライ前ヲキノゼウ線伊ドウクロウ佐土バカトリ州相等の名あり。英語の所謂 Steller's Albatross は乃ちこれなり。躰の大なる者は全長二尺五寸に達し、双翼を擴くれば七尺五寸余に至る。重量は予の測りし中最重き老鳥にて、一貫五百目あり。脚は比較的短きも頸は長く、且つ嘴は著しく長大にして六寸余に至る。其色は美なる肉色を呈し先端は鈎狀に曲りて甚だ鋭し。老成の鳥は羽翼白く唯頭頸の上部と躰の背部及翼羽尾羽の一部は黒褐色を呈す。然れども生後一年及び二年目の若き鳥にては、黒褐色部多くして、殊に雛にありては全身悉く暗黒色なり。元來本邦に産すとして

知られたる「クロアホウドリ」(Diomedea dergata, sw.)は此種の生後一年目位の幼鳥なり。或學者は「クロアホウトリ」を「アホウトリ」と全く別にし、或學者は二種を一とする等其間に異論あり。予は在島中「アホウトリ」の老幼種々の生きたる鳥に就き研査せるに、此鳥の幼時には獨り羽翼の黒さのみならず、脚及び嘴も黒色を呈し、白き老鳥と比する時は全く別種の觀あり。然れども數多の鳥を見れば其黒色の多少に差ありて、順に之を列ふる時は、其間に明なる限界なし。是れ予が前二種を同一種とし、然も「クロアホウトリ」を「アホウトリ」の幼鳥とする所以なり。此鳥は本島に渡來するは、九月の末より十月の初旬なり。然れども年により小遅速ありと云ふ。鳥は着島後交尾し、其後十日位にして營巢す。渡來の初期には、白羽の老鳥多く、若き鳥は遅くれて十二月より一月の間に來る。本島に信天翁の最多きは、一月より三月の間なり。今や鳥大に減少して又昔日の如くならず。二三年前にありては、全島の大半は鳥を以て満たされたりと云ふ。

鳥の巢を營びや、地上に踞し、周圍の土を嘴にて掻きよせ、口中より出す液にて固め、高さ七八寸、直徑一尺四五寸の圓錐を築く。頂上の中央は凹にして、中に枯葉等をしき、以て營巢の業を終ゆ。後凡そ四五日にして一卵を産み、孵化する迄は雌は之を抱きて、巢を離るゝをなし。或は云ふ雌雄は相交代して抱卵す。予は實見せざれば何れか是なるを知らず。一雌一雄は此鳥の常態なり。然れども外觀上雌雄を區別し得る要點を見ず。

卵は大にして一様に白く、鈍端には幾多の褐色の斑點あり。予が得たる卵中最大なるは長徑一